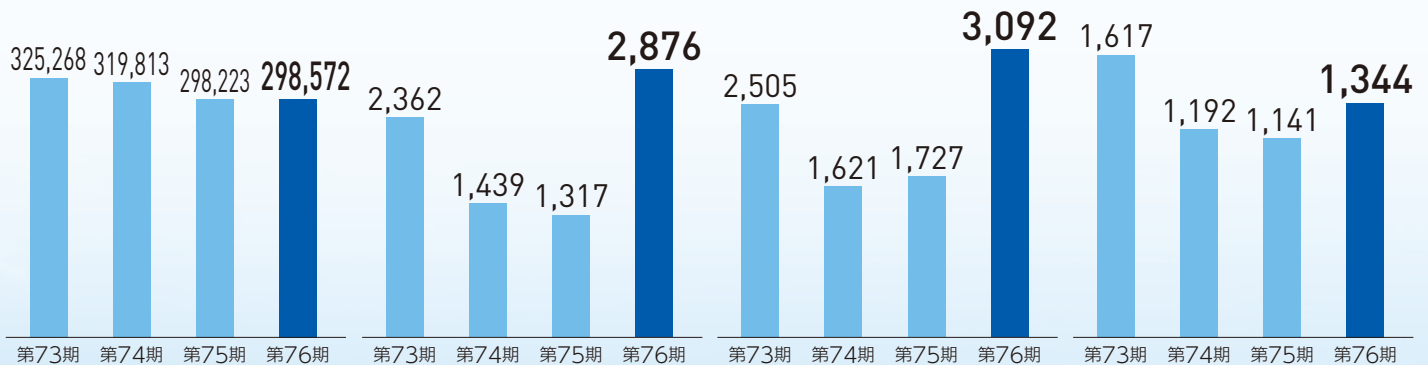


第76期
年次報告書
2021.4.1～2022.3.31

【業績ハイライト】

第76期の連結業績

売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益
298,572百万円	2,876百万円	3,092百万円	1,344百万円
前年同期 298,223百万円	前年同期比 118.4%増 ↑	前年同期比 79.1%増 ↑	前年同期比 17.8%増 ↑
(単位:百万円)	(単位:百万円)	(単位:百万円)	(単位:百万円)



(注)「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第76期の期首から適用しております。第76期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっているため、上記の売上高に係る対前年同期増減率については記載していません。

第77期の連結業績予想

売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益
310,000百万円	2,700百万円	2,900百万円	1,900百万円
前年同期比 3.8%増 ↑	前年同期比 6.2%減 ↓	前年同期比 6.2%減 ↓	前年同期比 41.3%増 ↑



**グループ一体としての企業活動を通じ、
お客様に価値ある商品とサービスを提供することにより、
食文化の発展に貢献し、
企業価値を最大化してまいります。**

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。
ここに、当社第76期（2021年4月1日から2022年3月31日まで）の事業
および財務の概況のご報告を申し上げます。

2022年6月

代表取締役社長 橋爪康至

事業の経過およびその成果

当連結会計年度におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により、大きく停滞した経済活動は徐々に回復しつつありますが、設備投資、生産活動、輸出には持ち直しの動きがみられるものの、雇用・所得環境、個人消費の回復は鈍く、持ち直しに足踏みがみられます。

先行きは、国内外の経済活動の本格的な回復が期待されますが、新型コロナウイルス感染症の収束動向やウクライナ情勢など不透明な状況にあります。

消費者心理は、新型コロナウイルス変異型の感染拡大、雇用・所得環境などの経済情勢の先行き不透明感や近時の消費者物価の高騰等により厳しい状況にあります。また、消費者購買行動は、新型コロナウイルス感染防止から、食料品などの日常品購買が中心になっておりますが、厳しい消費者心理を反映し、節約志向は継続しております。

水産物流通業界におきましては、新型コロナウイルス感染防止に伴う世界的な行動自粛などの影響により、内食関連需要は一部伸長するものの、外食・宿泊・インバウンド関連需要や輸出の回復は鈍く、加えて業種・業態の垣根を越えた販売競争が繰り広げられるなど、極めて厳しい経営環境下にありました。

このような環境にあつて、当社グループは、全体最適のグループ経営のもと、販売力・調達力の強化、顧客起点志向の追求、

地域に対応したソリューションの提供、業務の効率化、諸経費の節減などに注力し積極的な事業活動を展開してまいりました。

また、『OUGグループ中期経営計画2021』（2021年度～2023年度）を実践することにより、バリューチェーンの最適化を意識したグループ役職員の個々の行動変容を通じ、業績を向上させるべく注力してまいりました。

当連結会計年度の経営成績は、売上高は2,985億72百万円（前年同期は2,982億23百万円）となりました。損益面では、売上総利益は268億55百万円（前年同期比109.4%）となり、営業利益28億76百万円（前年同期比218.4%）、経常利益30億92百万円（前年同期比179.1%）、親会社株主に帰属する当期純利益13億44百万円（前年同期比117.8%）となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

<水産物荷受事業>
中央卸売市場を核とする集荷販売機能をもつ水産物荷受事業は、一部天然魚の漁獲量減少や海外水産物の調達難の影響等により販売数量は減少しましたが、内食関連販売が堅調に推移し、また、水産物価格の上昇が売上総利益率の向上につながり、売上高1,875億95百万円（前年同期は1,903億5百万円）、セグメント利益28億1百万円（前年同期比122.5%）となりました。

なお、収益認識に関する会計基準等の適用の影響により、当連結会計年度の売上高が131億81百万円減少しております。

<市場外水産物卸売事業>

全国各地を網羅する販売拠点を活かした幅広い流通網をもつ市場外水産物卸売事業は、主要取引先である外食・ホテル関連の販売低迷が続く一方、量販店関連の販売は堅調に推移し、新規取引先の獲得等もあって売上高は伸長しましたが、競合激化等に伴う売上総利益率の低下および運搬費等直接経費の上昇により、売上高1,134億30百万円（前年同期は1,085億3百万円）、セグメント損失5億45百万円（前年同期はセグメント損失8億6百万円）となりました。

なお、収益認識に関する会計基準等の適用の影響により、当連結会計年度の売上高が78億5百万円減少しております。

<養殖事業>

九州、四国にて、ハマチ、ブリ、マグロの養殖を展開する養殖事業は、全国的に養殖ブリの供給量が減少する中、販売価格が高値で推移したことから、売上総利益率の上昇が販売数量の減少や生産コストの高まりを上回る利益要因となり、売上高84億49百万円（前年同期は91億7百万円）、セグメント利益6億54百万円（前年同期はセグメント利益50百万円）となりました。

なお、収益認識に関する会計基準等の適用の影響により、当連結会計年度の売上高が6億8百万円減少しております。

<食品加工事業>

消費地にある食品加工センターでの水産加工、量販店向けの米飯加工、カット野菜加工、飲食事業者向けの加工・調理サービスなどを行う食品加工事業は、堅調な量販店関連の販売が、外食・ホテル・プライダル関連の販売低迷を補い、売上高46億54百万円（前年同期は44億79百万円）、セグメント利益5百万円（前年同期はセグメント損失1億67百万円）となりました。

なお、収益認識に関する会計基準等の適用の影響により、当連結会計年度の売上高が5億99百万円減少しております。

<物流事業>

物流センターにおいて、搬入された水産物等を量販店等の配送先別に仕分け・配送を行う物流事業は、センターフィーおよびギフト関連の収入が堅調に推移しましたが、運賃収入の減少、配送コストや人件費等の増加により、売上高15億96百万円（前年同期は19億71百万円）、セグメント利益6百万円（前年同期比34.5%）となりました。

なお、収益認識に関する会計基準等の適用の影響により、当連結会計年度の売上高が3億37百万円減少しております。

<その他>

グループの水産物流通を補完するリース事業等その他は、水産物小売事業におけるインバウンド需要等の低迷の影響により、売上高34億47百万円（前年同期は33億56百万円）、セグメント損失1億66百万円（前年同期はセグメント損失1億94百万円）となりました。

なお、収益認識に関する会計基準等の適用の影響により、当連結会計年度の売上高が83百万円減少しております。

対処すべき課題

今後の見通しにつきましては、新型コロナウイルス感染症が一定程度収束し、国内外の経済活動が本格的に回復するには相応の時間を要するものと想定され、また、ウクライナ情勢による影響などもあり、厳しい経済情勢が続くものと見込まれます。水産物流通業界におきましては、外食・宿泊・インバウンド関連需要や輸出の回復の遅れ、急激な円安による輸入水産物の価格高騰などが懸念されます。

また、消費者の日常消費に対する節約志向は継続し、業種・業態の垣根を越えた販売競争が継続するなど厳しい経営環境下にあると予測されます。

2023年3月期は、2021年度から2023年度の3カ年を対象とした『OUGグループ中期経営計画2021』（2021年5月11日公表）の2年度目に当たり、当社グループは、引き続きグループ横断的な4つの重点テーマである「鮮魚事業（取引）の拡大」、「加工事業（取引）の拡大」、「エリア戦略の推進」、「海外事業の推進」について、バリューチェーンの最適化を意識したグループ役職員の個々の行動変容を通じて、業績を向上させてまいります。

併せて、グループ情報基盤の整備、グループ品質保証システムの構築、サステナビリティに関連した取組みの推進などグループ経営基盤の強化に努めてまいります。

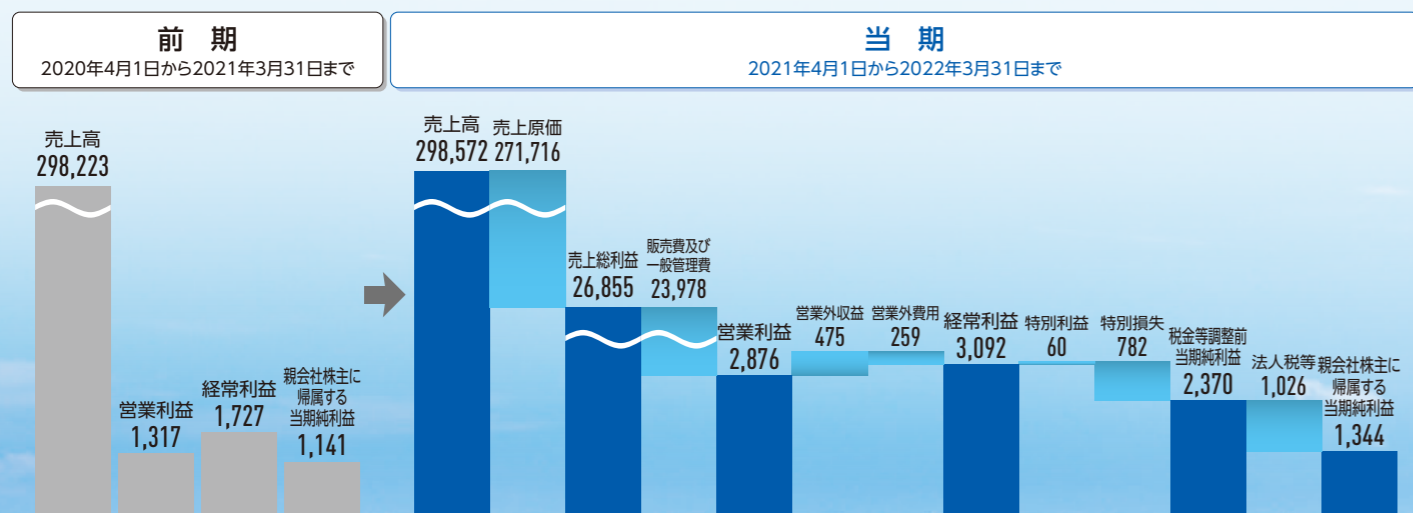
このようなグループ一体としての企業活動を通じ、お客様に価値ある商品とサービスを提供することにより、食文化の発展に貢献し、企業価値を最大化してまいります。

2023年3月期の業績に関しましては、売上高3,100億円、営業利益27億円、経常利益29億円、親会社株主に帰属する当期純利益19億円を見込んでおります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

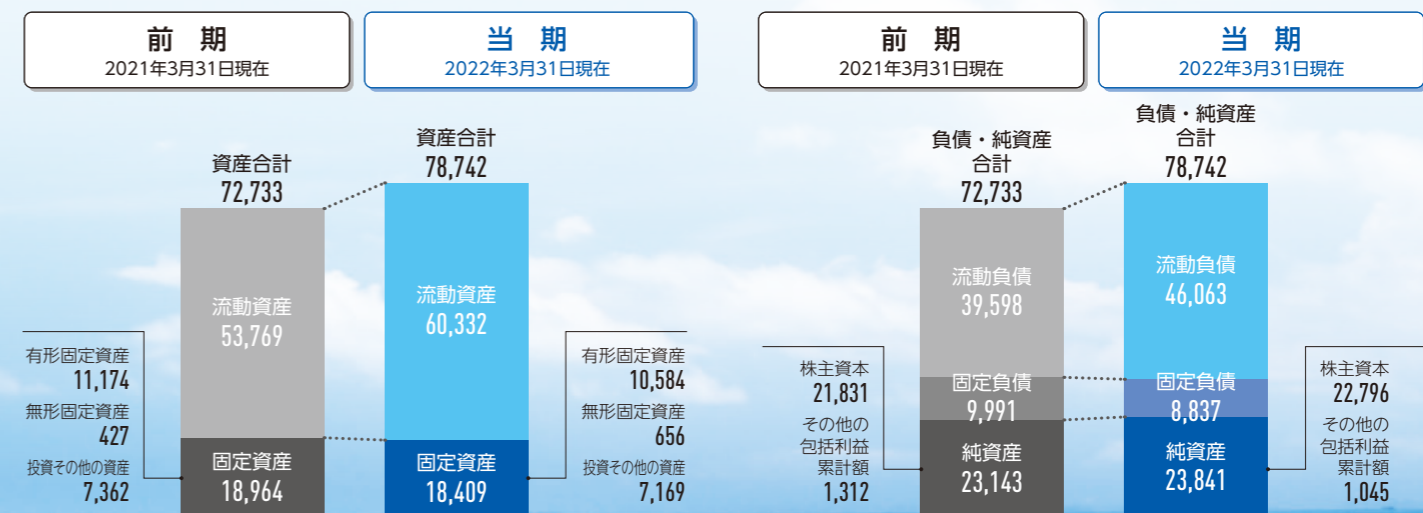
連結財務諸表（要約）

連結損益計算書のポイント（単位：百万円）



（注）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結貸借対照表のポイント（単位：百万円）



（注）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

ふるさと納税制度の返礼品として採用された OUGグループの製品のご紹介

当社グループでは、市場外水産物卸売事業を営む(株)ショクリュー、養殖事業を営む(株)兵殖・(株)松浦養殖、食品加工事業を営む関空トレーディング(株)において製造された製品がふるさと納税制度の返礼品として各自治体に採用され、利用者の方々からご好評を頂いており、人気ランキング上位の製品もあり、ご紹介させていただきます。

会社名 株式会社ショクリュー
品名 さざえつぼ焼き
自治体 山口県宇部市



山口県で水揚げされる活きたさざえを(株)ショクリュー宇部工場でつぼ焼きに加工しています。味付け等は一切しておらず、磯の香りが際立つ製品です。解凍してそのままでも、温めて醤油を垂らしても、お好みで召し上がれます。

会社名 株式会社兵殖
品名 豊後まぐろヨコヅーナ
自治体 大分県津久見市



大分県の豊後水道の栄養豊富な海で育てたクロマグロです。クロマグロが「魚の横綱」であることから「豊後まぐろヨコヅーナ」と名付けられました。身の締まった上質な赤身ときめ細やかで上品な脂の乗った極上のトロが自慢です。

会社名 関空トレーディング株式会社
品名 アトランティックサーモン
自治体 大阪府泉佐野市



ノルウェーから関西国際空港に空輸された鮮度の良いアトランティックサーモンの原魚を生食用に加工・小分けし、急速凍結しています。冷凍回数が1回のみワンフローゼン加工でお届けしますので、弾力ある食感と旨味が堪能できます。

会社名 株式会社松浦養殖
品名 まつよう太切りたい茶漬け
自治体 長崎県松浦市



玄界灘の南西部に位置する伊万里湾で育てられた良質な真鯛を一貫した生産管理のもと加工し、その厚みのある切身を相性の良い独自のたれに漬け込み、パック詰めしています。お茶漬けや丼としてご賞味いただければ鯛そのものの旨味や鮮度感が楽しめます。

※上記の返礼品は、いずれも今後の原料の状況等により品薄となる場合がございますので、詳細につきましては、ふるさと納税サイトでご確認ください。

【「株主優待制度」のご案内】

当社は、株主の皆様の日頃のご支援にお応えするとともに、より多くの株主様に当社グループをご理解していただきたいとの思いから、以下の内容で「株主優待制度」を実施しており、ご案内申し上げます。

贈呈基準	保有株式数別および継続保有期間別基準で贈呈
対象株主	1単元（100株）以上の株主様
基準日	毎年9月30日現在の株主名簿に記載または記録された株主様
贈呈時期	12月中旬に贈呈

■ 優待内容

保有株式数	継続保有期間	優待内容
100株以上 500株未満	3年未満	2,000円相当の水産加工品(当社指定品)贈呈
	3年以上	4,000円相当の水産加工品(数品目から1品選択)贈呈
500株以上	3年未満	4,000円相当の水産加工品(当社指定品)贈呈
	3年以上	8,000円相当の水産加工品(数品目から1品選択)贈呈

■ 継続保有期間（3年以上）のルール

毎年9月30日および3月31日において、同一株主番号で連続して7回以上株主名簿に記載または記録された株主様が対象となります。（詳細につきましては、当社ホームページをご参照ください。）

継続保有期間**3年未満**の株主様宛の株主優待品(昨年実績)

鮭ジャーキー・ほたて炙り焼き詰合せ

(2,000円相当)

(4,000円相当)



継続保有期間**3年以上**の株主様宛の株主優待品(昨年実績)

ほたて貝柱
(4,000円相当)

養殖アトランティックサーモン
(4,000円相当)

養殖本まぐろ中とろ
(8,000円相当)



■ 会社概要

(2022年3月31日現在)

社名	OUGホールディングス株式会社
主要な事業内容	定款に定められた事業を営むこと、ならびに定款で定められた事業を営む会社およびこれに相当する事業を営む外国会社の株式もしくは持分を保有することにより、当該会社の事業活動を支配、管理することおよびこれに関連する業務を行うことを目的としております。
設立	1946年6月12日（創業1947年10月1日）
資本金	6,495百万円
従業員数	連結1,418名 単独27名

■ 役員体制

(2022年3月31日現在)

取締役	代表取締役社長	勝田 昇
	取締役	中江 一夫
	取締役	橋爪 康至
	取締役	梅島 信也
	取締役	三浦 正晴（社外取締役）
	取締役	荻野 義明（社外取締役）
監査役	常勤監査役	辰 清広
	監査役	和田 徹（社外監査役）
	監査役	小竹 伸幸（社外監査役）
	監査役	石川 英機（社外監査役）
執行役員	執行役員	岡田 雅之
	執行役員	山田 稔
	執行役員	中村 耕

■ 株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
期末配当金受領株主確定日	3月31日
定時株主総会	毎年6月
単元株式数	100株
株主名簿管理人 特別口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-777（通話料無料）

○株券電子化に伴い、株主様の住所変更等の各種お手続きにつきましては、口座を開設されている証券会社等にお問合せください。

○特別口座に記録された株式に関する各種お手続き用紙のご請求につきましては、三菱UFJ信託銀行（特別口座管理機関）の上記連絡先の電話（受付時間：土・日・祝祭日等を除く平日9:00～17:00）およびインターネット（24時間）でも承っております。
<https://www.tr.mufj.jp/daikou/>

上場金融商品取引所	東京証券取引所 スタンダード市場（証券コード8041）
公告方法	電子公告の方法により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載します。 公告掲載の当社ホームページアドレス https://www.oug.co.jp

免責条項

本年次報告書に掲載している将来に関する予想については、現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいております。
実際の業績は、様々な要因の変化により、異なる場合があることをご承知おきください。

■ 株式の状況

(2022年3月31日現在)

発行可能株式総数	20,915,900株
発行済株式の総数	5,562,292株
株主数	11,791名

■ 大株主（上位10名）

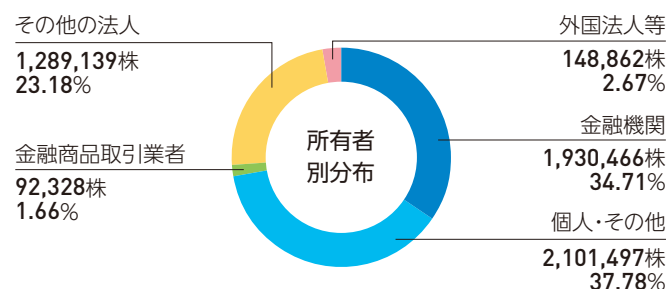
(2022年3月31日現在)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
マルハニチロ株式会社	745	13.44
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	315	5.68
日本生命保険相互会社	265	4.78
農林中央金庫	263	4.76
株式会社りそな銀行	184	3.32
株式会社みずほ銀行	175	3.16
三菱UFJ信託銀行株式会社	151	2.74
OUGグループ従業員持株会	116	2.10
株式会社三菱UFJ銀行	115	2.07
丸大食品株式会社	115	2.07

(注)持株比率は、自己株式(17,136株)を控除して計算しております。

■ 株式分布状況

(2022年3月31日現在)



Web Information

当社ホームページでは、当社の最新ニュースを株主・投資家の皆様に向け、発信しております。IRニュースや決算発表のページ、動画によるグループ各社の紹介、優待品を掲載した株主優待のページなど様々な情報を掲載しておりますので、ぜひご活用ください。



<https://www.oug.co.jp>

OUGホールディングス株式会社

〒553-0005 大阪市福島区野田二丁目13番5号 うおいちニッセイビル5階
TEL : 06-4804-3031 FAX : 06-4804-3145

